

# 事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	11-01-01	戦略プラン	<input checked="" type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	地域環境整備対策（荒川ルール）	部課名	防災都市づくり部都市計画課	課長名	川原		
		担当者名	永澤	内線	2816		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-04-01	地域環境整備対策費					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 18 年度	根拠	通称「荒川ルール条例」				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	法令等					
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	VI	安全安心都市				
	政策	12	利便性の高い都市基盤の整備				
	施策	01	快適な市街地環境への誘導				
目的	区内で大規模マンション（延べ面積3,000㎡以上かつ高さ10m超）が建設される場合において、その建設計画を早期に地域関係者に周知するとともに、地域関係者と事業者とが協議を行うための必要な手続きを定めることにより、地域における生活環境の保全と建築紛争を未然に防止することを目的としている。						
対象者等	大規模マンション（延べ面積3,000㎡以上かつ高さ10m超）の建築主						
内容	<p>○『荒川区大規模マンションの建設計画に係る地域における生活環境の配慮のための事前協議等に関する条例』（荒川ルール条例）を平成18年12月15日に制定し、実施している。</p> <p>○大規模マンション計画の初期段階において開発事業者側の構想が周辺住民に伝わるミニアセス的な住民参加型まちづくりの仕組みとして、地域住民と事業者とが協議を行うために必要な手続きを定めている。</p> <p>○条例手続きの流れは以下のとおり</p> <p>①事業者が区へ計画書を提出→②事業者による地域住民への計画説明会の実施→③地域住民による地域関係者会の設立→④地域関係者会より区へ「意見書」の提出→⑤「意見書」を踏まえ、区と事業者で協議→⑥事業者が区へ「回答書」を提出→⑦区は地域関係者会に協議結果の報告と「回答書」の送付→⑧地域関係者会と事業者との協議の継続→⑨回答書の内容等で合意した事項について「協定書」の締結→⑩区は地域関係者会と事業者に終了通知の送付</p>						
経過	<p>○平成10年、荒川区荒川1丁目39番に31階建て超高層マンションの建設が計画され、周辺住民は「高さ制限条例の制定」を求める直接請求を平成11年3月に区議会に提出した。直接請求は否決されたが、この問題を契機として、区は、『荒川区マンション建設に伴う地域環境の配慮に関する要綱』（荒川ルール要綱）を平成11年11月1日に制定した。</p> <p>○上記要綱の対象を拡大し、内容を充実させるため、区は、平成18年12月15日、『荒川区大規模マンションの建設計画に係る地域における生活環境の配慮のための事前協議等に関する条例』を制定、同日施行した。</p> <p>○平成19年5月31日、荒川ルール要綱を廃止した。</p>						
必要性	大規模マンションの建設における建築紛争を未然に防止するとともに、良質なマンションの供給及び地域環境の保全と向上のため、その必要性は大きい。						
実施方法	（ <input type="radio"/> 1直営）（直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input checked="" type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		28年度	29年度	30年度	元年度見込み	目標値(8年度)	
	① 建築紛争未然予防割合（%）	100	100	100	100	100	紛争未然予防件数／届出件数
	② 協定締結率（%）	100	100	100	100	100	協定締結件数／届出件数
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
継続	継続	大規模マンションの建設にあたり、事業者と近隣住民との間で建築紛争を未然に防止することができる有用な制度である。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		424	426	425	424	291	424	297
決算額（元年度は見込み）		233	218	208	208	104	151	297
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
届出件数		5	4	3	3	5	6	5
事業者による説明会回数		5	4	3	3	5	6	5
地域関係者会議の回数		39	30	22	25	19	21	20
アドバイザー派遣回数		4	3	3	3	1	2	3

予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報酬	アドバイザー報酬	102	報酬	アドバイザー報酬	142	報酬	アドバイザー報酬	264
旅費	アドバイザー旅費	2	旅費	アドバイザー旅費	3	旅費	アドバイザー旅費	14
			需用費	連絡調整会議賄い	1	需用費	連絡調整会議賄い	1
			使用料等	会場使用料	6	使用料等	会場使用料	18

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	2,701	2,434	▲ 267	地方税	0	0	0	
	物件費	2	9	7	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	0	0	0	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	559	135	▲ 424	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 3,262	▲ 2,578	684	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	3,262	2,578	▲ 684	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 3,262	▲ 2,578	684	
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 3,262	▲ 2,578	684	

備考 30年度においては、物件費が会場使用料の実績増等に伴い増加した。

問題点・課題 ○既存建物の解体が伴う届出計画については、近隣への騒音・振動等の影響が大きいため、地域住民への事前の解体説明会の実施を事業者をお願いをしており、これまで、ほぼ実施をしてもらっている。  
○近年、マンション計画の実施に伴って、これまで近隣住民が利用していた計画敷地に接する道路上のごみ集積場所の位置を変更する必要がある事例が増加している。新たな集積場所が決まらず、地域や町会の課題となっている。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	引き続き、解体工事が発生する届出物件については、説明会の実施を指導していく。また、町会加入についても強く指導していく。	解体工事が伴う届出が6件あり、すべて解体工事説明会を実施した。また、町会加入については地元町会と連携し、事業者に強く要望した。	工事が発生する届出物件については、説明会の実施を指導する。また、地元町会と連携し、町会加入を強く指導していく。
②	条例適応期間にごみ集積場所を検討するよう町会や地域関係者会に促し計画建物の完成後に問題が生じないようにしている。	条例適応期間にごみ集積場所を検討するよう町会や地域関係者会に働きかけて、新たなごみ集積場所の検討をもらっている。	引き続き条例適応期間に地域として新たなごみ集積場所を検討するよう町会や地域関係者会に促していく。
③			

他区の実況	（実施 0 区）		未実施 22 区		不明 0 区）	
	議会議案要旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成16年2定 「荒川ルール」における区の立場について</li> <li>平成17年3定 「荒川ルール」における区の対応について</li> </ul>				

# 事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	11-01-02	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事		
事務事業名	開発許可制度	部課名	防災都市づくり部都市計画課	課長名	川原			
		担当者名	近江	内線	2812			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）								
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 43 年度	根拠	都市計画法					
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	法令等						
実施基準	<input checked="" type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	VI	安全安心都市					
	政策	12	利便性の高い都市基盤の整備					
	施策	01	快適な市街地環境への誘導					
目的	一定規模以上の土地での区画形質の変更（道路の新設及び廃止、1mを超える切土又は盛土）に対し、公共施設（道路・公園等）の設置を義務づけることにより、無秩序な市街化を防止し、計画的な市街地を図るとともに、安全で良好な宅地環境の整備を図る。							
対象者等	主として建築物の建築又は特定工作物の建設を行うために、500㎡以上の土地での区画形質の変更を行う事業者							
内容	以下の技術基準に適合しているかどうか審査 ・ 予定建築物が用途地域等に適合していること ・ 接続先の道路、開発区域内の道路・公園等が基準に適合していること ・ 給排水施設が基準に適合していること ・ 申請者に必要な資力及び信用があること ・ 工事施行者に必要な能力があること ・ 開発区域及びその周辺の所有者等の同意を得ていること  ※住環境条例、指導要綱等の内容を併せて指導							
経過	昭和43年6月15日 都市計画法公布 平成12年4月1日 地方分権に伴い、都の事務処理特例条例により委任となる 平成18年5月31日 都市計画法改正により、開発許可が不要とされていた国及び都道府県等が行う開発行為についても、開発行為の協議は必要となる							
必要性	都市計画法に基づく事務のため、必要不可欠である。							
実施方法	（ <input type="radio"/> 1直営 <input checked="" type="radio"/> ） （直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input checked="" type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	許可までの日数(審査期間)(日)	14	4	13	13	10	審査期間の平均日数(標準処理期間65日)
	②	審査請求件数	0	0	0	0	0	審査請求を受けないよう、厳正な審査を行う
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
継続	継続	法律に基づく事務であり、秩序あるまちづくりを進めていくため、継続して実施する。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		—	—	—	—	—	—	—
決算額（元年度は見込み）		—	—	—	—	—	—	—
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
許可件数（基準：許可日、変更含む）		0	1	4	3	2	3	2
開発登録簿写しの交付（部数）		23	46	69	79	67	46	55
予算・決算の内訳		平成29年度（決算）		平成30年度（決算）		令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目		29年度	30年度	差額	行政収入	勘定科目		29年度	30年度	差額
	行政費用	給与関係費	5,461	5,392	▲ 69		地方税				
	物件費				国庫支出金						
	維持補修費				都支出金						
	扶助費				分担金及び負担金						
	補助費等				使用料及び手数料						
	減価償却費				その他						
	不納欠損・貸倒引当金繰入額				行政収入合計(a)	0	0	0			
	賞与・退職給与引当金繰入額	1,175	318	▲ 857	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 6,636	▲ 5,710	926			
	その他行政費用				金融収支差額(d)						
	行政費用合計(b)	6,636	5,710	▲ 926	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 6,636	▲ 5,710	926			
	特別費用(g)				特別収入(f)						
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 6,636	▲ 5,710	926			

備考 主に給与関係費が行政費用の多くを占めている。また、補助対象事業でもないため、行政収入は発生していない。

問題点・課題 ○許可の審査にあたっては、区の統一的な見解をもって指導する必要がある。

## 問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	「開発許可の手引き」の窓口公開を行う。	「開発許可の手引き」の検討を行った。確認後、窓口公開を行う。	社会状況等に則した適切な指導を行う。
②			
③			

他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)
議会議事録(要旨)	

# 事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	11-01-03	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事		
事務事業名	都市計画審議会運営	部課名	防災都市づくり部都市計画課	課長名	川原			
		担当者名	永澤	内線	2816			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-01-01	都市計画審議会費						
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和 47 年度	根拠	都市計画法					
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	法令等						
実施基準	<input checked="" type="checkbox"/> 法令基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 都基準内 <input type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="checkbox"/> 計画 <input type="checkbox"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	VI	安全安心都市					
	政策	12	利便性の高い都市基盤の整備					
	施策	01	快適な市街地環境への誘導					
目的	都市計画法による権限に属する事項と、区長が諮問する都市計画に関する事項について、調査、審議、答申すること及び都市計画に関する事項について、必要に応じて建議することで区長が行なう都市計画決定を補完する。							
対象者等	荒川区全域							
内容	<input type="checkbox"/> 審議内容 東京都決定、区決定の都市計画等について調査、審議、答申または建議する。  <input type="checkbox"/> 構成員 学識経験者7人、区議会議員5人、関係行政機関の職員3人（東京都、警察、消防）、区民5人 計20人							
経過	<input checked="" type="checkbox"/> 29年度都市計画審議会の開催（H30.1.22） <input checked="" type="checkbox"/> 用途地域の追加に伴う地区計画の変更について [審議・答申] ① 南千住一・荒川一丁目地区    ② 荒川二・四・七丁目地区    ③ 荒川五・六丁目地区 ④ 町屋二・三・四丁目地区    ⑤ 尾久中央地区 <input checked="" type="checkbox"/> 30年度都市計画審議会の開催（H31.1.11） ① 委員の委嘱、会長及び職務代理者の選出 ② 日暮里中央通り沿道地区地区計画、都市計画公園の変更（各事前説明） <input checked="" type="checkbox"/> 30年度都市計画審議会の開催（H31.3.25） ① 日暮里中央通り沿道地区地区計画 [審議・答申] ② 都市計画公園の変更 [審議・答申] ③ 都市計画駐車場の変更 [審議・答申]							
必要性	区の都市計画決定等に際し法的に必要である。							
実施方法	（1直営）（直営の場合 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員）							
指   標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	① 審議会開催件数		1	1	2	4	-	必要に応じて開催
	② 案件審議件数		1	1	3	6	-	必要に応じて開催
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
継続	継続	都市計画の決定に当り、区民や専門家等の意見を反映していくため、継続して実施する。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		1,096	1,013	837	838	845	838	843
決算額（元年度は見込み）		415	727	251	221	219	399	843
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
開催回数（回）		2	3	1	1	1	2	4
委員平均参加率（%）		82	95	85	95	90	90	90
予算・決算の内訳		平成29年度（決算）		平成30年度（決算）		令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報酬	審議会委員報酬	181	報酬	審議会委員報酬	338	報酬	審議会委員報酬	692
旅費	審議会委員旅費	4	旅費	審議会委員旅費	4	旅費	審議会委員旅費	34
需用費	審議会賄い	4	需用費	審議会賄い	8	需用費	審議会賄い	13
役務費	議事録作成料	24	役務費	議事録作成料	48	役務費	議事録作成料	80
使用料等	会場使用料	6	使用料等	会場使用料	0	使用料等	会場使用料	24

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	2,911	3,034	123	地方税	0	0	0	
	物件費	38	60	22	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	0	0	0	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	588	159	▲ 429	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 3,537	▲ 3,253	284	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	3,537	3,253	▲ 284	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 3,537	▲ 3,253	284	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 3,537	▲ 3,253	284		

備考

30年度においては、物件費が議事録作成の実績増等に伴い増加した。

問題点・課題

○都市計画審議会は、都市計画案件により必要に応じて開催しているが、案件はその年度により増減があるため、案件数が多い場合は、いかに効率よく有効に開催していくかが課題である。

○都市計画案件は、専門的な用語や事例が多いため、区民委員への事前の説明・周知が必要である。

## 問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	案件内容等については、引き続き審議会会長等との事前の相談・協議を徹底し、審議会の充実を図っていく。	案件内容等については、審議会会長等との事前の相談・協議を行い、審議会の充実が図れた。	引き続き審議会会長等との事前の相談・協議を徹底し、審議会の充実を図る。
②	案件内容により、区民委員の事前の勉強会を実施して、審議の充実を図ると共に、分かりやすい資料作りに努めていく。	今回は、案件内容により区民委員の事前勉強会は実施しなかった。今後の案件内容によっては、実施する予定である。	今後も案件内容により、区民委員の事前の勉強会を実施して、審議の充実を図ると共に、分かりやすい資料作りに努めていく。
③			
他区の実況	(実施 22 区)	未実施 0 区	不明 0 区)
議会議況(要旨)			

# 事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	11-01-04	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事		
事務事業名	都市復興計画	部課名	防災都市づくり部都市計画課	課長名	川原			
		担当者名	大沼・宮本	内線	2812			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）								
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	13年度	根拠	荒川区震災等による被災市街地復興条例				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等					
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input checked="" type="radio"/> 都基準内 <input type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	VI	安全安心都市					
	政策	12	利便性の高い都市基盤の整備					
	施策	01	快適な市街地環境への誘導					
目的	大規模な震災、火災その他の災害により甚大な被害を受けた市街地についてその緊急かつ健全な復興を図るため、市街地の計画的な整備改善について必要な事項を定めることにより、市街地の復興を円滑に推進し、もって災害に強い良好な市街地の形成に資する。							
対象者等	大規模な震災などにより甚大な被害を受けた地区							
内容	（都市復興マニュアル） 【第1段階】都市復興初動体制の確立（発災～1週間）⇒【第2段階】都市復興基本方針等の策定（1週間～1ヶ月）⇒【第3段階】都市復興基本計画等の策定（1ヶ月～6ヶ月）⇒【第4段階】都市復興事業計画等の策定（6ヶ月～1年）⇒【第5段階】都市復興事業の推進（1年以降） ○復興担当職員がいざというときにとるべき行動手順や計画立案の指針について検証、検討を進める ○東京都が開催する都市復興模擬訓練への参加 ○被災建築物応急危険度判定員（事務局：建築指導課）や被災宅地危険度判定士の養成 ※被災宅地危険度判定士 70名（平成30年度末）							
経過	平成9年度 （東京都）都市復興マニュアル・生活復興マニュアル策定 平成10年度 （東京都）都市復興マニュアルに基づく模擬訓練実施 ※以後毎年実施 平成12年度 （東京都）震災対策条例公布 平成13年度 （東京都）震災復興グランドデザイン策定 東京都被災宅地危険度判定地域連絡協議会発足 講習会の実施 ※以後毎年実施 平成13年10月 荒川区震災等による被災市街地復興条例制定 平成14年度 （東京都）震災復興マニュアル策定 ※都市復興と生活復興を統合し再編（H28.3修正） 平成15年9月 荒川区都市復興マニュアル策定（H27.4一部改正） 平成20年度 （東京都）区市町村震災復興標準マニュアル作成 平成25年6月 大規模災害からの復興に関する法律公布 平成30年度 都市復興訓練（都主催）を荒川区にて開催							
必要性	迅速かつ円滑に都市の復興を進めるには、いざというときにとるべき行動や施策をあらかじめ検討し、多くの職員が理解しておくことが有効である。また、復興計画の策定に向けた手順等を平時から訓練し、有事に備えることが必要である。							
実施方法	（ <input type="radio"/> 直営 <input type="radio"/> ） （直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input checked="" type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	都市復興マニュアルの見直し(%)	70	70	70	70	100	検討:50%、時点修正:70%、改訂:100%
	②	都市復興模擬訓練への参加者数(人)	1	1	5	2	2	参加人数 ※H30は荒川区が会場のため
③	被災宅地危険度判定士の登録者数(人)	63	64	64	70	75	登録者数	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
継続	継続	災害時における復興計画に迅速に対応するためにも継続実施が必要である。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		-	-	-	-	-	-	-
決算額（元年度は見込み）		-	-	-	-	-	-	-
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
復興模擬訓練の開催回数（都）		1	1	1	1	1	1	
被災宅地判定士講習会の開催回数（都）		1	1	1	1	1	1	
予算・決算の内訳		平成29年度（決算）			平成30年度（決算）		令和元年度（予算）	
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目		
	29年度	30年度	差額		29年度	30年度	差額
	給与関係費	4,421	4,476	55	地方税		
	物件費				国庫支出金		
	維持補修費				都支出金		
	扶助費				分担金及び負担金		
	補助費等				使用料及び手数料		
	減価償却費				その他		
	不納欠損・貸倒引当金繰入額				行政収入合計(a)	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	951	264	▲ 687	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 5,372	▲ 4,740
	その他行政費用				金融収支差額(d)		
	行政費用合計(b)	5,372	4,740	▲ 632	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 5,372	▲ 4,740
	特別費用(g)				特別収入(f)		
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 5,372	▲ 4,740

備考 主に給与関係費が行政費用の多くを占めている。また、補助対象事業でもないため、行政収入は発生していない。

問題点・課題 ○都市復興マニュアルをより実効性のあるものにしていくために、内容の検証や事前準備、マニュアルに即した区職員による復興研修の実施が必要である。  
○東京都が開催する都市復興訓練の経験者を増やすとともに、被災者支援システムとの連携等も検討する必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	他課を含め、マニュアルを活用した復興研修を実施する。本年は東京都による都市復興訓練を荒川区で実施する。	本年10月から12月にかけて、西尾久3・6丁目、東尾久8丁目を舞台に都市復興訓練を実施した。	都市復興訓練に引き続き参加すると共に職員向けの復興研修を行う。
②			
③			

他区の実況	(実施 20 区 未実施 2 区 不明 0 区)
	都市復興マニュアル策定区 千代田区、港区、新宿区、文京区、台東区、墨田区、江東区、品川区、目黒区、大田区、世田谷区、中野区、杉並区、豊島区、北区、板橋区、練馬区、足立区、葛飾区、江戸川区

況(要旨) 議会質問状  
・平成13年2定 震災復興条例の制定について



# 事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	11-01-05	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事		
事務事業名	土地利用現況調査	部課名	防災都市づくり部都市計画課	課長名	川原			
		担当者名	近江	内線	2812			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-06-01	土地利用現況調査費						
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成	令和 61 年度	根拠	都市計画法				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等					
実施基準	<input checked="" type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画	<input checked="" type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	VI	安全安心都市					
	政策	12	利便性の高い都市基盤の整備					
	施策	01	快適な市街地環境への誘導					
目的	都市計画を適切に運用・遂行するため、土地利用状況のほか、建築物の用途、構造、面積等の調査を定期的に行い、まちの経年変化を把握する。 随時行われる都市計画の変更に伴い、都市計画図等閲覧システムを更新し、ホームページで公開する。							
対象者等	区内全域の土地・建築物							
内容	<input type="radio"/> 主な事項 都市計画法に基づき、都が主体となって実施した都市計画に関する基礎調査の一部である土地利用現況調査結果を基に、区におけるデータ作成を行う。 ・都市計画基礎調査（都市計画法第6条）に関する事務：概ね5年毎（直近：平成30年度） ・土地利用現況調査（都市計画基礎調査のための実地調査）：概ね5年毎（直近：平成28年度） <input type="radio"/> 付属事項 ・土地利用現況調査結果を基に、区内の土地利用の状況及び経年変化を資料としてまとめている。 ・都指定の地図データに用途地域等の都市計画や土地利用現況調査結果を組み込んだシステムを構築し、保守・管理している。 ・用途地域等を記載した都市計画図データの作成（毎年）及び印刷（都市計画変更時） ・まちづくり施策の基礎資料として使用する白図データの作成（毎年）							
経過	土地利用現況調査（昭和61年度以降5年毎） 都市計画基礎調査（昭和63年度以降5年毎） 荒川区都市計画情報システムの導入（平成13年度） 都市計画図等閲覧システム[ホームページ用]の構築（平成19年度） 荒川区地図情報システム[統合型GIS及び公開型GIS]の更新及び構築（平成29年度） 荒川区地図情報システム[公開型GIS]運用開始（平成30年度）							
必要性	都市計画法に基づく事務であり、都市計画情報を適正に管理することは、まちづくり施策の推進を図るために必要である。							
実施方法	（ <input type="radio"/> 一部委託 <input checked="" type="radio"/> ） （直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） 統合型GIS及び公開型GIS更新業務委託、都市計画図データ作成（金額3,265,608円）							
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明	
		28年度	29年度	30年度	元年度見込み	目標値(8年度)		
	①	都市計画図アクセス状況（数） （荒川区ホームページ）	19,122	22,847	25,860	28,000	40,000	年単位（年度単位ではない）
	②	地図情報アクセス状況（数） （区外部サイト）			10,978	13,000	20,000	年単位（H30年4月～H30年12月末）
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
継続	継続	土地利用現況調査の定期的な実施により、まちの経年変化や各種まちづくり事業の進捗状況を把握することができ、新たなまちづくり施策立案の基礎資料として活用できる。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		1,315	1,264	1,446	1,505	12,207	2,588	3,266
決算額（元年度は見込み）		1,302	1,264	1,439	1,418	8,520	1,367	3,266
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
荒川区都市計画図（発行部数）		1,000	—	1,000	1,000	—	300	1000
荒川区白図（発行部数）		100	—	—	—	—	—	—
予算・決算の内訳		平成29年度（決算）		平成30年度（決算）		令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	土地利用現況調査データ作成	4,563	需用費	都市計画図増刷	173	役務費	インターネット接続料	39
委託料	GISデータ更新作業他	3,957	役務費	インターネット接続料	39	委託料	GISデータ更新作業他	3,227
			委託料	GISデータ更新作業他	1,156			

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
	給与関係費	6,046	6,053	7	地方税	0	0	0	
	物件費	8,520	1,367	▲ 7,153	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	756	756	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	0	0	0	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	756	756	
	賞与・退職給与引当金繰入額	1,301	357	▲ 944	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 15,867	▲ 7,021	8,846	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	15,867	7,777	▲ 8,090	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 15,867	▲ 7,021	8,846	
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 15,867	▲ 7,021	8,846	

備考 30年度においては、物件費が土地利用現況調査データ作成の皆減等により委託料の減に伴い減少した。また、都支出金は、都から委託を受けた東京都都市計画基礎調査の実施に伴い増加した。

問題点・課題 ○都市計画情報システムに道路台帳平面図・指定道路図をあわせて搭載する「地図情報システム」の公衆配信の効果を検証し、必要に応じて改善を図る。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	都市計画情報システムの公衆配信の効果を検証し、必要に応じて改善を図る。	地図情報システムの公衆配信の効果を検証し、必要に応じて改善を図った。	地図情報システムの公衆配信の効果を検証し、必要に応じて改善を図る。
②			
③			

他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)
議会議事録(要旨)	

# 事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	11-01-06	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事		
事務事業名	荒川区市街地整備指導要綱	部課名	防災都市づくり部都市計画課	課長名	川原			
		担当者名	近江	内線	2812			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）								
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 52 年度	根拠	荒川区市街地整備指導要綱					
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	法令等						
実施基準	<input checked="" type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	VI	安全安心都市					
	政策	12	利便性の高い都市基盤の整備					
	施策	01	快適な市街地環境への誘導					
目的	一定規模以上の建築物の建設、周辺の市街地環境に影響を与える施設整備等に対して、荒川区のまちづくり施策との整合性を図るため必要な事項を定め、区内における市街地の秩序ある整備を促進するとともに、生活環境の向上及び公共公益施設等との調和を図る。							
対象者等	①都市計画法第29条に基づく開発行為、②延床面積1,000㎡以上の建築物、③6戸以上の共同住宅等及び長屋、④墓地又は納骨堂の設置、⑤ペット火葬施設等の設置、⑥移動火葬施設の使用							
内容	<p>○事業計画の段階で、以下の事項について指導・協議する。                      近隣関係住民への説明、町会等との協議、景観への配慮、電波障害対策、計画規模に応じた道路及び緑地等・外壁の後退、生活環境対策（ごみ置場及びリサイクル物品保管場所の設置、防犯灯の設置）、事業計画に応じた駐車施設（来客、荷捌き、その他）及び駐輪施設の設置、防災対策（防火水槽設置、雨水対策）、バリアフリーへの配慮、地球環境への配慮、土壌汚染対策、埋蔵文化財保護</p> <p>○協議で合意に達した場合、合意事項に基づく協定を締結する。</p> <p>○工事完了時に現地に赴き、協定の履行確認を行うとともに、適正な維持管理を担保する。</p>							
経過	昭和52年11月制定（荒川区開発指導要綱） 昭和58年4月改正（名称：東京都荒川区市街地整備指導要綱） 平成9年9月現要綱制定 ※以後12回改正、最終改正平成26年3月 平成19年9月改正（集合住宅を条例化） 平成25年3月改正（戸建住宅等を条例化） 平成30年3月改正（小規模な共同住宅・寄宿舍・長屋を新たに対象）							
必要性	秩序ある民間開発事業を整備促進し、既成市街地における住環境の維持・向上を図るために、必要な事業である。							
実施方法	（1直営）（直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input checked="" type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） 指導内容が多岐の分野に渡るため、事業者は「事前申出書」提出前に関係各課と協議を行うこととし、提出後は当課を窓口とし指導を行っている。							
指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	協定締結率（%）	100	75	75	100	100	協定締結/提出（適用除外除く）
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
継続	推進	区の街づくり方針に合わせた開発を誘導する事業であるため、推進する。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		—	—	—	—	—	—	—
決算額（元年度は見込み）		—	—	—	—	—	—	—
実績の推移	事項名（元年度は見込み）	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
	事前申出書提出(件)	16	5	7	7	14	89	90
	協定書締結(件)	6	3	5	6	3	10	6
	協定履行確認(件)	1	7	3	10	1	9	6
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
	給与関係費	5,981	6,309	328	地方税				
	物件費				国庫支出金				
	維持補修費				都支出金				
	扶助費				分担金及び負担金				
	補助費等				使用料及び手数料				
	減価償却費				その他				
	不納欠損・貸倒引当金繰入額				行政収入合計(a)	0	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	1,287	372	▲ 915	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 7,268	▲ 6,681	587	
	その他行政費用				金融収支差額(d)				
	行政費用合計(b)	7,268	6,681	▲ 587	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 7,268	▲ 6,681	587	
	特別費用(g)				特別収入(f)				
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 7,268	▲ 6,681	587	

備考

主に給与関係費が行政費用の多くを占めている。また、補助対象事業でもないため、行政収入は発生していない。

問題点・課題

「墓地の設置」「ペットの火葬施設、埋葬施設又は納骨施設の設置」「移動火葬施設の使用」は、近隣トラブルに発展する可能性が高く、難しい指導となることが想定されるため、迅速な対応ができるよう、予め指導方針を定めておく必要がある。  
6戸以上の共同住宅等及び長屋が対象になったことを周知徹底し指導を行う。

## 問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	平成29年の改正により、新たに届出対象となった事業の適切な指導を行う。	平成29年度の改正により、新たに届出対象となった事業の適切な指導を行った。	新たに届出対象となった事業の完了届の提出を促し、協議事項の履行を確認する。
②			
③			

他区の実況	(実施 13 区 未実施 9 区 不明 0 区)
	未実施地区：9区（新宿・目黒・世田谷・渋谷・中野・豊島・練馬・足立・江戸川）
議会議決要旨	

# 事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	11-01-07		戦略プラン	<input checked="" type="radio"/> 協働 <input type="radio"/> 業務 <input type="radio"/> 財務 <input type="radio"/> 人事					
事務事業名	魅力ある都市景観づくり		部課名	防災都市づくり部都市計画課		課長名	川原		
			担当者名	永澤		内線	2816		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-08-01	魅力ある都市景観づくり事業費							
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）			<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 11 年度		根拠	景観法・都景観条例・区景観条例					
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		法令等						
実施基準	<input checked="" type="radio"/> 法令基準内 <input checked="" type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準			計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	VI 安全安心都市							
	政策	12 利便性の高い都市基盤の整備							
	施策	01 快適な市街地環境への誘導							
目的	荒川区景観条例及び景観計画の着実な運用により、区の特徴を生かした景観まちづくりの推進を図る。								
対象者等	<input type="radio"/> 一定規模以上の建築物の新築、増築、改築等を行う建築主 <input type="radio"/> 宅地開発を行う事業主 等								
内容	<input type="radio"/> 荒川区景観条例、景観計画 景観法の規定に基づく景観計画の策定、行為の規制等のほか、区民と進める景観まちづくり等について必要な事項を定めることにより、区民等、事業者及び区が協働して、地域特性を生かした良好で個性あふれる景観形成の実現を図ることを目的としている。 <input type="radio"/> 荒川区景観審議会 区長の附属機関として、良好な景観の形成に関する事項について、調査・審議を行う。 29年度開催内容（H29.9.1） 報告事項①景観事前協議制度について②荒川区景観まちづくり塾について ③西日暮里駅前地区市街地再開発事業について <input type="radio"/> 景観まちづくり推進委員会 公募区民で構成する委員会にて、景観まちづくりの施策を広く区民等に普及・展開する。								
経過	平成16年6月 景観法の公布（17年6月全面施行） 平成20年度 区内の景観の状況や景観資源の把握をするための景観基礎調査を実施 平成21-22年度 景観法を踏まえた区の景観計画（案）、景観条例（案）を作成 平成23年度 区は、東京都の同意を得て、5月1日付けで「景観行政団体」となり、24年3月1日に景観計画と景観条例の施行をした 平成24年度 以後、条例に基づく事前協議制度、景観法に基づく届出制度を実施継続 その際、景観アドバイザー制度を活用し、事業者への適切な指導、誘導を実施継続 平成27年度 「防災と景観」をテーマに景観まちづくりセミナーの開催 平成28年度 景観まちづくり塾の実施（全8回）、景観まちづくりシンポジウムの開催 平成29年度 景観まちづくり塾（Ⅱ期）の実施（全7回）、景観まちづくりシンポジウムの開催 平成30年度 景観まちづくり塾（Ⅲ期）の実施（全7回）、景観まちづくりシンポジウムの開催								
必要性	良好な景観は、魅力と個性ある街並みの形成と、潤いのある豊かな生活環境の創造に不可欠である。								
実施方法	（1直営） （直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input checked="" type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）								
指   標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明		
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)	
	①	景観アドバイザーの指摘に対する対応率（%）		71.4	91.5	92.0	90.0	90.0	・対応率=対応案件数/事前協議件数
	②								
③									
事務事業の分類			分類についての説明・意見等						
元年度		2年度							
推進		推進		生活環境の質の向上が求められている中、景観まちづくりを推進していく。					

予算・決算額等の推移	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額	3,910	3,238	10,325	3,186	3,458	3,497	3,246
決算額 (元年度は見込み)	2,484	1,299	8,133	1,770	1,549	1,431	3,246
実績の推移	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事前協議件数	62	55	59	56	57	63	58
届出件数	65	53	66	56	44	54	55
景観アドバイザー相談協議回数	47	29	34	27	24	27	29
景観審議会開催回数	1	1	0	1	1	0	1

予算・決算の内訳								
平成29年度 (決算)			平成30年度 (決算)			令和元年度 (予算)		
節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)
報酬	アドバイザー報酬等	1,329	報酬	アドバイザー報酬等	1,177	報酬	アドバイザー報酬等	2,562
報償費	講師謝礼	52	報償費	講師謝礼	124	報償費	講師謝礼	104
旅費	アドバイザー旅費等	22	旅費	アドバイザー旅費等	20	旅費	アドバイザー旅費等	127
需用費	景観ニュース印刷製本等	86	需用費	景観ニュース印刷製本等	57	需用費	景観ニュース印刷製本等	273
役務費	議事録作成料等	35	役務費	議事録作成料等	4	役務費	議事録作成料等	108
使用料等	会場使用料	25	使用料等	会場使用料	48	使用料等	会場使用料	72

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	12,251	11,962	▲ 289	地方税	0	0	0	
	物件費	157	126	▲ 31	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	63	128	65	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0	
	賞与・退職給付引当金繰入額	2,351	636	▲ 1,715	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 14,822	▲ 12,852	1,970	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	14,822	12,852	▲ 1,970	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 14,822	▲ 12,852	1,970	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 14,822	▲ 12,852	1,970		

備考 30年度においては、物件費が議事録作成の実績減等に伴い減少した。また、補助費等は、講師謝礼の実績増等に伴い増加した。

問題点・課題 ○事前協議制度による景観アドバイザーの指摘に対する対応率は、施主や事業者の建築計画に対するコンセプトや予算などに影響されるが、これまでは高い数値を示しており、引き続き制度を機能させて今後も高い対応率を継続していく。  
○魅力ある景観まちづくりを進めるためには、地域住民を中心とした景観まちづくり活動をいかに育成・支援していくかが課題である。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	「景観まちづくり塾」Ⅲ期を開講し、「荒川ワクワク防災マップ」の完成を目指す。地域力向上の担い手の発掘・育成を更に進める。	「景観まちづくり塾」Ⅲ期を実施し、4回の講座、3回のワークショップを行った。3月に景観シンポジウムを実施し、塾生による成果発表を行った。	引き続き「景観まちづくり塾」を実施して、地域力向上の担い手の発掘・育成を更に進める。
②			
③			

他区の実況	(実施 18 区 未実施 4 区 不明 0 区)
景観法に基づく景観行政団体として景観計画、景観条例の制定区：18区 (世田谷区、新宿区、江東区、足立区、杉並区、墨田区、港区、目黒区、品川区、江戸川区、板橋区、練馬区、台東区、渋谷区、大田区、文京区、北区、豊島区)	

議会要旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年2定 地域の活性化に寄与する景観について</li> <li>平成23年4定 景観条例の制定について</li> <li>平成25年1定 景観に配慮をした公共サインについて</li> </ul>
------	---

# 事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	11-01-08	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	スーパー堤防の整備促進	部課名	防災都市づくり部都市計画課	課長名	川原		
		担当者名	井上・阿部	内線	2815		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）							
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	60 年度	根拠	河川法			
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等				
実施基準	<input checked="" type="radio"/> 法令基準内 <input checked="" type="radio"/> 都基準内 <input type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	VI	安全安心都市				
	政策	11	防災・防犯のまちづくり				
	施策	03	災害に強い街づくりの推進				
目的	高潮対策事業により昭和50年に完成した現在の隅田川防潮堤（通称：カミソリ護岸）を、より安全性や親水性の高いスーパー堤防（特定地域高規格堤防）に作り変えることで、潤いのある水辺空間の創出を目指すものである。なお、事業主体は河川管理者の東京都建設局河川部である。						
対象者等	隅田川沿いの土地で建設事業等を行おうとする者 （区は、対象者に本事業の案内や協力要請を行っている）						
内容	スーパー堤防、緩傾斜型堤防及びテラスの整備 【参考：隅田川の延長23.5km 内荒川区の接岸延長 約8km】 都市計画マスタープランにおける「全体構想」の中で、隅田川沿岸整備により、「水辺を楽しめる空間の充実を図るとともに、治水対策などの防災機能の向上を図る」としている。 また、環境基本計画でも、隅田川の親水機能の整備促進施策として、本事業が位置付けられている。						
経過	<input type="radio"/> スーパー堤防整備事業（特定地域堤防機能高度化事業：昭和60年創設） 整備済距離（地域別） 白鬚地区（3地区） 1,377m 南千住地区（2地区） 360m 町屋地区（2地区） 237m 東尾久地区（1地区） 336m 西尾久地区（2地区） 452m 計2,762m（約34%） 事業中地区：西尾久三丁目公園工区 平成31年度完成予定 140m 南千住七丁目 完成時期未定 40m（約2%） <input type="radio"/> 緩傾斜型堤防整備事業（都市河川総合整備事業：昭和55年度創設） 整備済距離 白鬚地区（4地区） 960m（約12%） 事業中地区：三河島地区（水再生センター裏） 202m（約3%） <input type="radio"/> テラス整備 整備済距離： 計5,266m（約65%） 事業中地区：西尾久三丁目公園工区、千住大橋下流地区 計409m（約5%）						
必要性	隅田川は都市内の貴重な自然環境であることから、安全でうるおいのある水辺を再生し、区民に広く開放するために必要な事業である。						
実施方法	（ <input type="radio"/> 1直営） （直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		28年度	29年度	30年度	元年度見込み	目標値(8年度)	
	① テラス整備率（%）	59	65	65	70	88	接岸延長に対するテラス整備延長
	② 土と緑の堤防整備率（%）	46	46	46	48	56	接岸延長に対するスーパー又は緩傾斜型堤防整備延長
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
継続	継続	親水性と治水性を兼ね備えた堤防の整備は、快適で安全な区民の暮らしに効果があるため、継続して実施する。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		-	-	-	-	-	-	-
決算額(元年度は見込み)		-	-	-	-	-	-	-
実績の推移	事項名(元年度は見込み)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算・決算の内訳								
平成29年度(決算)			平成30年度(決算)			令和元年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)

行政コスト計算書	勘定科目	29年度	30年度	差額	勘定科目	29年度	30年度	差額
	給与関係費	2,763	4,476	1,713	地方税			
	物件費				国庫支出金			
	維持補修費				都支出金			
	扶助費				分担金及び負担金			
	補助費等				使用料及び手数料			
	減価償却費				その他			
	不納欠損・貸倒引当金繰入額				行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	595	264	▲ 331	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 3,358	▲ 4,740	▲ 1,382
	その他行政費用				金融収支差額(d)			
行政費用合計(b)	3,358	4,740	1,382	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 3,358	▲ 4,740	▲ 1,382	
特別費用(g)				特別収入(f)				
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 3,358	▲ 4,740	▲ 1,382	

備考 主に給与関係費が行政費用の多くを占めている。また、補助対象事業でもないため、行政収入は発生していない。

問題点・課題 ○法的拘束力のない開発事業者の同意に基づく事業であるため、計画的な事業執行は見込めない。  
 ○敷地に余裕がない場合、現在の事業スキームでは実施困難であり、東京都が行っている新たな手法等検討の状況を注視する必要がある。  
 ○隅田川に接した区所有地については、スーパー堤防整備に向けて区内を調整する必要がある。(荒川遊園D地区区間：合意書締結、町屋公園区間：関係各課調整)  
 ○スーパー堤防化が困難な区間においては、テラス整備を先行して行うよう東京都に働きかけている。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	旧小台橋小学校区間についてさらに協議を行い、30年度半ばに確認書を締結する。尾竹橋公園区間についても協議を開始する。	旧小台橋小学校(荒川遊園D地区)区間については30年12月に確認書を締結し、尾竹橋公園区間については情報共有を図った。	荒川遊園D地区区間の合意書締結に向けて、引き続き協議を行う。また、町屋公園区間のスケジュール調整等を行う。
②	引き続き都と地元とのパイプ役を兼ねるとともに、新たなスーパー堤防やテラスの整備について都へ働きかける。	都の地元調整の際、連絡等でパイプ役を担った。また、新たなスーパー堤防やテラス整備等について情報交換を行った。	引き続き、スーパー堤防整備等について、新たな手法の検討も含めて都へ働きかける。
③			

他区の実況	(実施 12 区 未実施 10 区 不明 0 区)
	○東京都施行(隅田川) 港、江東、中央、墨田、台東、足立、北 ○国施行(荒川・江戸川・多摩川) 江東、江戸川、墨田、葛飾、足立、北、板橋、大田、世田谷

議会(要旨) 状況  
 ・平成19年2定 テラスの連続性確保の要望について  
 ・平成20年4定 隅田川堤防の安全性とスーパー堤防整備について  
 ・平成22年2定 汐入公園防災用の船着場の活用について  
 ・平成22年4定 スーパー堤防の整備状況と今後の整備の見通しについて  
 ・平成27年度2月会議 スーパー堤防化に時間を要する区間のテラス先行整備について



# 事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	11-01-09	戦略プラン	<input checked="" type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	西日暮里三丁目まちづくり計画検討	部課名	防災都市づくり部都市計画課	課長名	川原		
		担当者名	大沼・宮本	内線	2812		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）							
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 17 年度	根拠					
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	VI	安全安心都市				
	政策	12	利便性の高い都市基盤の整備				
	施策	01	快適な市街地環境への誘導				
目的	「区部における都市計画道路の整備方針（H16.3）」で都市計画の見直し候補区間として示されていた西日暮里三丁目における補助92号線、補助188号線について廃止の方針が決定し（H27.12）、概ね2年程度を目安に都市計画決定手続きを行うこととなった。これに基づき都や隣接区と連携しながら変更決定内容について協議を進める。						
対象者等	西日暮里三丁目地域内に権利を有する者（面積13.5ha、居住者：約千世帯1,800人）						
内容	<input type="radio"/> 区部における都市計画道路の整備方針における区内の都市計画の見直し候補区間（廃止決定） 路線名 見直し候補区間 延長 計画幅員 補助92号線 環状4号線～補助184号線 約2,520m 20～22m 補助188号線 補助92号線～日暮里駅前付近 約460m 6～15m <input type="radio"/> 都市計画決定手続きが必要な事項 ・補助92号線の廃止（都決定）及び補助188号線の廃止（区決定）						
経過	平成15年度 日暮里・谷中地区道路ネットワーク検討調査委員会（東京都主催、荒川区、台東区） 平成16年3月 第三次事業化計画「区部における都市計画道路の整備方針」策定（東京都・特別区） 平成17年度 「見直し候補区間」の周知、まちづくりに関する検討を行うために住民意識を高揚（説明会、アンケート）、検討組織への参加の呼びかけ、準備会議の開催 平成18年4月 「西日暮里三丁目まちづくり協議会」発足 以降H21年度末までに、協議会39回開催、まちづくりニュース15回発行 平成22年3月 「西日暮里三丁目まちづくり計画」策定 平成27年12月 見直し候補区間の都市計画道路廃止の方針決定						
必要性	都では概ね2年程度を目安に都市計画道路の廃止手続きを行う方針であったが、それに合わせた近隣区や地域住民との調整が進み、都市計画の手続きを開始することとなった。						
実施方法	（ <input type="radio"/> 直営 <input type="radio"/> ） （直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）						
指   標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		28年度	29年度	30年度	元年度見込み	目標値(8年度)	
	① まちづくり計画策定進捗率（%）	100	100	100	100	100	策定済：100%
	②						
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
継続	休止・完了	都市計画道路の廃止に向けた手続きを開始。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		-	-	-	-	-	-	-
決算額（元年度は見込み）		-	-	-	-	-	-	-
実績の推移	事項名（元年度は見込み）	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）

行政コスト計算書	勘定科目	29年度	30年度	差額	勘定科目	29年度	30年度	差額
	給与関係費	4,421	2,238	▲ 2,183	地方税			
	物件費				国庫支出金			
	維持補修費				都支出金			
	扶助費				分担金及び負担金			
	補助費等				使用料及び手数料			
	減価償却費				その他			
	不納欠損・貸倒引当金繰入額				行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	951	132	▲ 819	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 5,372	▲ 2,370	3,002
	その他行政費用				金融収支差額(d)			
	行政費用合計(b)	5,372	2,370	▲ 3,002	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 5,372	▲ 2,370	3,002
	特別費用(g)				特別収入(f)			
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 5,372	▲ 2,370	3,002	

備考 主に給与関係費が行政費用の多くを占めている。また、補助対象事業でもないため、行政収入は発生していない。

問題点・課題 ○都市計画道路の廃止が見えてきたが、スケジュールがタイトであるため都及び関係3区で引き続き連絡を密にしていける必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	引き続き、東京都及び近隣区と調整を行う。	東京都及び近隣区と廃止・変更時期について調整中。	都及び3区で調整し廃止時期が概ね確定した。
②	廃止・変更手続きに併せ、東京都及び関係3区と連携して説明会を実施する。	廃止・変更時期が決まらず、未開催に終わった。	東京都及び関係3区で8月末に説明会を行う。
③			

他区の実況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)

況（要旨） 議会質問状  
 ・平成17年4定 補助92号線の見直しについて

# 事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	11-01-10		戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	都市計画マスタープランの推進		部課名	防災都市づくり部都市計画課		課長名	川原	
			担当者名	大沼・宮本		内線	2812	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）								
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="radio"/> 昭和	<input checked="" type="radio"/> 平成	令和 17 年度	根拠	都市計画法第18条の2			
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有	<input type="radio"/> 無	40 年度	法令等	(市町村の都市計画に関する基本的な方針)			
実施基準	<input checked="" type="radio"/> 法令基準内		<input type="radio"/> 都基準内	<input checked="" type="radio"/> 区独自基準	計画区分	<input type="radio"/> 計画	<input checked="" type="radio"/> 非計画	
行政評価事業体系	分野	VI	安全安心都市					
	政策	12	利便性の高い都市基盤の整備					
	施策	01	快適な市街地環境への誘導					
目的	平成21年3月に改定した都市計画マスタープランに掲げる目標を実現するため、長期的な視点で街づくりを推進する。							
対象者等	区民及び事業者をはじめ、区の各街づくり施策担当							
内容	<p>○都市計画マスタープランに掲げる分野別街づくり及び地域別街づくりの取組事項についてまとめた市街地整備プログラムに基づき、各種事業の進行管理を行い、事業の促進を図る。</p> <p>○都市計画マスタープランをもとに、新たな都市計画や街づくり事業の調整を行う。</p>							
経過	<p>平成8年度 当初の都市計画マスタープラン策定</p> <p>平成16年度 (都) 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（都市計画区域マスタープラン）策定</p> <p>平成17年度 基礎資料となる他の自治体の取り組み状況の調査等実施</p> <p>平成18年度 区の策定方針検討のための資料作成、委託業者選定プロポーザル実施</p> <p>平成19年度 策定業務委託、基礎調査及び中間素案まとめ作成</p> <p>平成20年度 策定業務委託、中間案のパブリックコメント</p> <p>都市計画マスタープラン策定</p> <p>平成21年度 (都) 都市づくりビジョン改定</p> <p>平成22年度 市街地整備プログラムの策定</p> <p>平成26年度 (都) 都市計画区域マスタープラン改定</p> <p>平成29年度 (都) 都市づくりのランドデザイン策定</p>							
必要性	都市計画マスタープランに基づき、計画的かつ効率的な街づくりを推進する必要がある。							
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input checked="" type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員 )							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	市街地整備プログラム策定進捗率(%)	100	100	100	100	100	策定完了：100%
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
継続	継続	「幸福実感都市 あらかわ」の実現に向けて、街づくり事業全般の進行管理等を行う。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		-	-	-	-	-	-	-
決算額（元年度は見込み）		-	-	-	-	-	-	-
実績の推移	事項名（元年度は見込み）	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目		29年度	30年度	差額	勘定科目		29年度	30年度	差額
	行政費用	給与関係費	6,632	4,476	▲ 2,156	行政収入	地方税			
		物件費					国庫支出金			
		維持補修費					都支出金			
		扶助費					分担金及び負担金			
		補助費等					使用料及び手数料			
		減価償却費					その他			
		不納欠損・貸倒引当金繰入額					行政収入合計(a)	0	0	0
		賞与・退職給与引当金繰入額	1,427	264	▲ 1,163		行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 8,059	▲ 4,740	3,319
		その他行政費用					金融収支差額(d)			
行政費用合計(b)		8,059	4,740	▲ 3,319	通常収支差額(c)+(d)=(e)		▲ 8,059	▲ 4,740	3,319	
特別費用(g)				特別収入(f)						
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 8,059	▲ 4,740	3,319			

備考

主に給与関係費が行政費用の多くを占めている。また、補助対象事業でもないため、行政収入は発生していない。

問題点・課題

○東京都では平成29年に都市づくりのグランドデザインを策定し、現在は都市計画区域マスタープランの改定を進めている。※都市計画区域マスタープラン改定時期（令和3年3月予定）  
あわせて「都市防災」「自然的環境」「都市復興」等の関連計画・方針についても策定中である。  
○区のマスタープランは区域マスタープランや関連計画・方針との整合性を図る必要があることから、改定内容を注視していく。

## 問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	今後、都の上位計画等の改定が想定されるため、それに合わせて内容の検討を行う。	区域マス等にあわせた検討を行うとともに、近々改定予定である台東区・墨田区と意見交換を行った。	区域マスや各種関連計画・方針等が区のマスタープランとの整合性が保たれるよう必要に応じた働き掛けを行う。
②	市街地整備プログラムの改定を行う。	市街地整備プログラムは改定せず、改定に向けた検討及び進行管理を行った。	市街地整備プログラムの改定に向け引き続き進行管理を行う。
③			

他区の実況	(実施 13 区 未実施 9 区 不明 0 区)
	改定時期 港区(H29)、文京区(H23)、墨田区(H20)、江東区(H23)、品川区(H25)、大田区(H23)、世田谷区(H27)、中野区(H21)、杉並区(H25)、豊島区(H27)、北区(H22)、板橋区(H23)、練馬区(H27)、葛飾区(H23)
議会(要旨)質問状	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成22年3定 町屋地域全体のまちづくりについて、町屋駅周辺に下町の風情を生かしたまちづくりについて</li> <li>平成23年1定 荒川区の今後のまちづくりについて、南千住地域における今後のまちづくりについて</li> <li>平成23年4定 魅力ある尾久地域の整備について</li> </ul>

# 事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	11-01-11	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事		
事務事業名	防災都市づくり推進計画	部課名	防災都市づくり部都市計画課	課長名	川原			
		担当者名	大沼・宮本	内線	2812			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）								
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	9年度	根拠					
終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	37年度	法令等					
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input checked="" type="radio"/> 都基準内 <input type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	VI	安全安心都市					
	政策	11	防災・防犯のまちづくり					
	施策	03	災害に強い街づくりの推進					
目的	震災の予防、被害の拡大防止の観点から、東京都震災対策事業計画において、地震に強い都市づくりを推進するための対策として位置付けられた取組のうち、延焼遮断帯の整備のほか、緊急輸送道路の機能確保や避難場所等の確保に取り組むとともに、木造住宅密集地域における建築物の不燃化・耐震化など面的な整備を進める。							
対象者等	防災都市づくりのための施策を実施している地域							
内容	<p>○延焼遮断帯を構成する都市計画道路の整備、都市防災不燃化促進事業による沿道建築物の不燃化促進</p> <p>○特定緊急輸送道路沿道建物耐震化推進事業による沿道建物の耐震化促進</p> <p>○密集住宅市街地整備促進事業による主要生活道路や広場等の整備推進や建築物の不燃化・共同化の促進</p> <p>○木造（非木造）建物耐震化推進事業やブロック塀等改修助成事業による安全な避難路の確保促進</p> <p>○老朽空家住宅除却助成事業による安全な市街地形成の促進</p> <p>○地区計画や東京都建築安全条例に基づく防火規制の活用による安全で良好な市街地形成への誘導</p> <p>○防災都市づくり推進計画（H28.3東京都）で指定された整備地域、重点整備地域の事業推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整備地域：地域危険度が高く、かつ、特に老朽化した木造建築物が集積するなど、震災時の大きな被害が想定される地域【荒川地域：約591ha 千駄木・向丘・谷中地域：約212ha】</li> <li>・重点整備地域：整備地域の中から、重点的に事業展開し早期に防災性の向上を図ることにより、波及効果が期待できる地域【町屋・尾久地区：約242.6ha、荒川二・四・七丁目地区：約48.5ha】</li> </ul>							
経過	<p>昭和58年度 都市防災不燃化促進事業開始</p> <p>昭和62年度 密集住宅市街地整備促進事業開始</p> <p>平成7年度 （東京都）防災都市づくり推進計画（基本計画）策定 →荒川地域（約583ha）が重点整備地域（現整備地域）に指定</p> <p>平成8年度 （東京都）防災都市づくり推進計画（整備計画）策定 →町屋・尾久地区（約267ha）が重点地区（現重点整備地域）に指定</p> <p>平成21年度 （東京都）防災都市づくり推進計画改定 → 千駄木・向丘・谷中地域が整備地域に指定</p> <p>平成23年度 特定緊急輸送道路沿道建物耐震化推進事業開始</p> <p>平成25年度 不燃化特区整備促進事業開始 → H32年度までの集中的な取組</p> <p>平成27年度 （東京都）防災都市づくり推進計画改定 →荒川二・四・七丁目地区（約48.5ha）が重点整備地域に指定</p>							
必要性	震災時に区民の生命と財産を守るため、木造密集市街地の総合的な改善が必要である。							
実施方法	（1直営）（直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input checked="" type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）							
指   標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	① 不燃領域率（荒川二・四・七丁目）（%）	64.8	66.3	67.1	69	70		土地面積に対する耐火・準耐火建築、空地等の比率
	② 不燃領域率（町屋・尾久）（%）	60.2	60.9	62.1	64	70		土地面積に対する耐火・準耐火建築、空地等の比率
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
継続	継続	密集地域はこの推進計画でも重点整備地域等に位置づけられており、都と連携して事業を進める必要がある。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		-	-	-	-	-	-	-
決算額（元年度は見込み）		-	-	-	-	-	-	-
実績の推移	事項名（元年度は見込み）	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）

行政コスト計算書	勘定科目		29年度	30年度	差額	勘定科目	29年度	30年度	差額
	行政費用	給与関係費		4,421	4,476		55	地方税	
物件費						国庫支出金			
維持補修費						都支出金			
扶助費						分担金及び負担金			
補助費等						使用料及び手数料			
減価償却費						その他			
不納欠損・貸倒引当金繰入額						行政収入合計(a)	0	0	0
賞与・退職給与引当金繰入額			951	264	▲ 687	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 5,372	▲ 4,740	632
その他行政費用						金融収支差額(d)			
行政費用合計(b)			5,372	4,740	▲ 632	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 5,372	▲ 4,740	632
特別費用(g)					特別収入(f)				
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 5,372	▲ 4,740	632	

備考 主に給与関係費が行政費用の多くを占めている。また、補助対象事業でもないため、行政収入は発生していない。

問題点・課題  
 ○密集市街地内における一時集合場所につながる道路の防災性についての検討が必要である。  
 ○西日暮里三丁目地区が含まれる、千駄木・向丘・谷中地域においても防災性向上に向けた取組みについて検討が必要である。  
 ○木密地域の改善に資する地区計画の導入を進めていく必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	無電柱化基本計画の策定 補助193号線の事業着手 尾久地域における地区計画策定及び区域拡大	無電柱化推進計画（素案）作成 補助193号線の事業着手 地区計画策定に向け協議会の設立準備	無電柱化推進計画の作成 尾久地域における地区計画策定及び区域拡大
②			
③			

他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)
-------	--------------------------

況（要旨）  
 ・平成22年3定 町屋地区の防災性向上策について

# 事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	11-01-12	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事			
事務事業名	区民の手によるまちづくりの支援	部課名	防災都市づくり部都市計画課	課長名	川原				
		担当者名	大沼・宮本	内線	2812				
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	02-01-01	区民の手によるまちづくり支援事業費							
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業				
開始年度	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和	18年度	根拠						
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	年度	法令等						
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input type="checkbox"/> 計画 <input checked="" type="checkbox"/> 非計画					
行政評価事業体系	分野	VI	安全安心都市						
	政策	12	利便性の高い都市基盤の整備						
	施策	01	快適な市街地環境への誘導						
目的	地域を愛し、人を思いやるあらかわの良さをよりどころに、自立した区民が、主体的にまちづくりに参加する仕組みづくりを検討する。								
対象者等	区民								
内容	<p>○区民が地区計画制度を活用し易くするための仕組みづくり                  区民が主体となってまちづくりを考える手法である地区計画制度に興味を示してもらうため、地域住民が真に必要な情報等を反映した地区計画の手引きやガイドを作成すると共に、初期の各種相談に即時に対応できる体制の整備及び検討段階における支援をする。</p> <p>○まちづくり施策に区民の意見を反映するための総合的な仕組みづくり                  都市計画の提案制度の創設や近年制定する自治体が増えつつあるまちづくり条例等、荒川区らしい区民参加の仕組みを模索する。</p>								
経過	平成18年度	都市計画マスタープラン改定に向けた準備、業者選定の実施 西日暮里三丁目まちづくり協議会の設立 区政改革懇談会（まちづくり・環境分科会事務局）の実施 荒川区基本構想策定							
	平成21年度	西日暮里三丁目まちづくり協議会の活動を参考に「地区計画策定の手引」作成							
	平成23年度	荒川区景観計画策定、景観条例制定 →景観まちづくり活動を行う区民組織の育成、認定、技術的支援の制度を創設							
	平成28年度	区民主体のまちづくり活動である日暮里中央通りまちづくり協議会の設立							
	平成29年度	日暮里中央通りのまちづくり支援のために区が地権者の意向調査を実施							
	平成30年度	協議会案を基に、日暮里中央通り沿道地区地区計画を策定 三の輪銀座商店街振興組合からまちづくりルール導入についての相談							
必要性	基本構想の基本理念や都市計画マスタープランに掲げる区民の主体的なまちづくりへの参画を推進するため、区民の手によるまちづくりの支援制度の整備が必要である。								
実施方法	（ <input type="checkbox"/> 1直営 <input type="checkbox"/> ） （直営の場合 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員）								
指   標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明		
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)	
	①	まちづくりに関する活動組織数		9	9	10	10	10	組織の数
	②								
③									
事務事業の分類		分類についての説明・意見等							
元年度	2年度								
推進	推進		時代の要請である住民主体のまちづくりを実践していくための事業である。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		-	-	-	-	-	4,696	-
決算額（元年度は見込み）		-	-	-	-	-	4,536	-
実績の推移	事項名（元年度は見込み）	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
			委託料	日暮里中央通り沿道地区地区計画策定支援業務委託	4,536			

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目		29年度	30年度	差額	勘定科目		29年度	30年度	差額
	行政費用	給与関係費		2,211	6,713	4,502	地方税			0
物件費				4,536	4,536	国庫支出金			0	0
維持補修費				0	0	都支出金		1,734	1,734	
扶助費				0	0	分担金及び負担金			0	0
補助費等				0	0	使用料及び手数料			0	0
減価償却費				0	0	その他			0	0
不納欠損・貸倒引当金繰入額				0	0	行政収入合計(a)	0	1,734	1,734	
賞与・退職給与引当金繰入額		476		396	▲ 80	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 2,687	▲ 9,911	▲ 4,422	
その他行政費用				0	0	金融収支差額(d)			0	0
行政費用合計(b)			2,687	11,645	4,422	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 2,687	▲ 9,911	▲ 4,422	
特別費用(g)			0	0	特別収入(f)			0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 2,687	▲ 9,911	▲ 4,422		

備考 30年度においては、物件費が日暮里中央通り沿道地区地区計画策定支援業務委託の実施に伴い増加した。また、都支出金は、地区計画策定事業に伴い増加した。

問題点・課題 ○区民がまちづくり活動をより身近なものと感じられるよう、様々なまちづくり活動を知る機会や活動に参加できる機会を増やす必要がある。

## 問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	地区計画策定に向けて、区がコンサルタント委託を行い、まちづくり協議会を支援していく。	日暮里中央通り沿道地区において協議会を支援し、地区計画策定に至った。	-
②	-	三の輪銀座商店街振興組合からの相談に対し、まちづくりコンサルタント派遣等	土地・建物所有者の調査、まちづくりルールアンケートの実施
③	「景観まちづくり塾」Ⅲ期を開講し、「荒川ワクワク防災マップ」の完成を目指す。地域力向上の担い手の育成を更に進める。	「景観まちづくり塾」Ⅲ期を実施し、4回の講座、3回のワークショップを行った。3月に景観シンポジウムを実施した。	引き続き「景観まちづくり塾」を実施して、地域力向上の担い手の発掘・育成を更に進める。

他区の実況	(実施 13 区 未実施 9 区 不明 0 区)			
	まちづくり条例制定区：中央区、港区、墨田区、目黒区、大田区、世田谷区、渋谷区、中野区、杉並区、豊島区、練馬区、足立区、葛飾区			

議会(要旨)質問状	状況
・平成19年2定 生活環境と地域コミュニティを守る荒川区まちづくり条例の制定について ・平成20年1定 都市再生整備計画などを活用したまちづくりについて ・平成20年3定 総合的なまちづくり条例制定について ・平成28年度11月会議 住民が考えるまちづくりについて ・平成30年度11月会議 商店街における街づくりルールの策定について	



# 事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	11-01-13		戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	住宅等の建築に係る住環境の整備に関する条例（住環境条例）		部課名	防災都市づくり部都市計画課		課長名	川原	
			担当者名	近江		内線	2812	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）								
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="radio"/> 昭和	<input checked="" type="radio"/> 平成	令和 19 年度	根拠	荒川区住宅等の建築に係る住環境の整備に関する条例及び施行規則			
終期設定	<input type="radio"/> 有	<input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等				
実施基準	<input checked="" type="radio"/> 法令基準内		<input type="radio"/> 都基準内	<input checked="" type="radio"/> 区独自基準	計画区分	<input type="radio"/> 計画	<input checked="" type="radio"/> 非計画	
行政評価事業体系	分野	VI	安全安心都市					
	政策	12	利便性の高い都市基盤の整備					
	施策	01	快適な市街地環境への誘導					
目的	住宅等の建築に係る住環境の整備について基本的なルールを定めることにより、住宅等の居住者にとって快適な居住環境を確保し、かつ、周辺地域における生活環境の維持向上を図るとともに、住宅等の居住者と周辺住民が良好な近隣関係を築き、豊かな地域社会の形成を図る。							
対象者等	①15戸以上の共同住宅及び寄宿舎の建築、②6区画以上の一戸建ての住宅及び長屋の建築、③土地350㎡以上の区画形質の変更（道路の新設等）を伴う一戸建ての住宅の建築、④敷地350㎡以上の長屋の建築							
内容	<p>○建築計画の段階で、以下の事項について指導                      近隣関係住民への周知、電波障害対策、町会等の加入又は自治会設立、土地区画面積（敷地面積60㎡以上）、専有面積（25㎡以上、総戸数に応じて50㎡以上の住戸を附置）、駐車施設の設置（商業系用途地域：戸数の10%以上、左記以外：戸数の30%以上、停留空地：1台）、防災対策（防火水槽設置、中間階備蓄倉庫設置、雨水対策）、管理人室の設置、管理の基準、集会室の設置、計画規模に応じた道路等の整備及び壁面の後退、景観への配慮、土壌汚染調査、埋蔵文化財調査、バリアフリーへの配慮、地球環境への配慮、災害時における地域貢献                      ※緑地・駐輪場・廃棄物の各条例の届出等は関係各課で対応</p> <p>○工事完了時に現地に赴き、条例の履行確認を行うとともに、適正な管理への誘導                      ※条例内容を遵守しない建築主に対し、勧告・公表が可能</p>							
経過	平成19年9月27日制定（要綱から集合住宅を条例化） 平成25年3月21日改正（要綱から戸建住宅等を条例化） 平成27年10月30日改正（子育て支援施設の設置等に関する事前協議拡充、家族向け住宅附置義務強化） ※家族向け住宅附置義務強化：従前30戸以上から対象⇒15戸以上から対象 ・平成30年3月29日規則改正（管理時における駐車施設の変更の協議の規定新設）							
必要性	既成市街地における民間開発事業の秩序化による住環境の維持・向上を図るため、必要な事業である。							
実施方法	（ <input type="radio"/> 直営）（直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input checked="" type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） 指導内容が多岐の分野に渡るため、建築主は「建築計画書」提出前に関係各課と協議を行うこととし、提出後は当課を窓口とし指導を行っている。							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	計画時の条例適合率（%）	100	100	100	100	100	適合/届出
	②	完了時の条例適合率（%）	92	79	94	100	100	完了確認通知/完了届出
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
推進	推進	民間開発事業に伴う紛争を未然に防止し、良好な住環境の維持・向上に欠かせない事業であるため、推進する。						



# 事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	11-01-14	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事	
事務事業名	災害時地域貢献建築物の認定制度	部課名	防災都市づくり部都市計画課	課長名	川原		
		担当者名	近江	内線	2812		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-05-02	災害時地域貢献建築物認定事業費					
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和	23 年度	根拠	災害時地域貢献建築物認定制度実施要綱			
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	年度	法令等				
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input type="checkbox"/> 計画	<input checked="" type="checkbox"/> 非計画		
行政評価事業体系	分野	VI	安全安心都市				
	政策	11	防災・防犯のまちづくり				
	施策	01	災害時における体制の強化				
目的	水害時における近隣住民等の一時の避難先となる建築物を認定することにより、「自助」「共助」による震災対策を促進することによって、地域防災力の向上を図る。						
対象者等	次の全てに該当する建築物の所有者等 ・建築基準法における新耐震基準（昭和56年6月1日施行）を満たしている建築物 ・5階建て以上かつ延べ面積1,000㎡以上の建築物						
内容	<p>○「災害時地域貢献建築物」として認定を受けようとする建築物の所有者等の申請に基づき、申請内容が認定基準を満たしていると認めた場合、認定証交付、認定プレート掲示</p> <p>○「災害時地域貢献建築物」については、建築物名称・所在地等をホームページや防災地図を通じて、積極的に周知</p> <p>※認定基準</p> <p>①既存の町会への加入又は自治会の設立をしていること ②地域と連携して、防災対策の態勢を構築していること ③緊急時に近隣住民等が建物内に避難することについて、建築物の所有者等が合意していること ④緊急時における円滑な避難ができるように、建築物の出入口の円滑な開錠が可能であること</p>						
経過	平成23年8月1日制定  (災害時地域貢献建築物への資機材購入費助成金交付要綱 平成23年9月1日制定 区民生活部防災課)						
必要性	緊急時の一時避難先を確保することは、近隣住民に安心感を与えるとともに、地域における防災対策の促進につながり、ひいては地域防災力の向上を図ることができる。						
実施方法	( 一部委託 ) ( 直営の場合 <input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員 ) 認定プレート作成委託						
指   標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		28年度	29年度	30年度	元年度見込み	目標値(8年度)	
	① 認定建築物の数(件)	11	13	13	15	31	認定建築物の数(累計)
	②						
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
推進	推進	大規模水害時における垂直方向の避難場所を確保することは、万一高台へ避難できない場合に有効である。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		140	240	176	231	231	266	212
決算額（元年度は見込み）		21	26	19	22	22	23	212
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
認定件数（年度毎）		2	1	1	1	2	0	2
認定辞退件数（年度毎）							1	0
予算・決算の内訳		平成29年度（決算）		平成30年度（決算）		令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	認定プレート作成	22	委託料	認定プレート作成	23	委託料	認定プレート作成	212

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額		29年度	30年度	差額	
行政費用	給与関係費	3,836	3,815	▲ 21	地方税	0	0	0
	物件費	22	23	1	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	0	0	0	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	826	225	▲ 601	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 4,684	▲ 4,063	621
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	4,684	4,063	▲ 621	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 4,684	▲ 4,063	621
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 4,684	▲ 4,063	621	

備考

主に給与関係費が行政費用の多くを占めている。また、補助対象事業でもないため、行政収入は発生していない。

問題点・課題

昨今、マンション居住者同士のコミュニティが希薄である中、この認定制度をきっかけに、居住者同士はもとより、近隣住民との「共助」を促していく必要がある。

## 問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	認定プレートのデザインを多言語表記を考慮したものに変更する。	認定プレートのデザインを多言語表記を考慮したものに変更する検討を行った。次申請から新デザインのプレートを使用する。	マンションの住民と良好な関係にある町会とともに、マンションへ制度の説明を行い、認定の働きかけを行う。
②	引き続き、より良い制度となるよう改善策を検討していく。	引き続き、より良い制度となるよう住民の意見を踏まえて改善策を検討した。	引き続き、より良い制度となるよう改善策を検討していく。
③			

他区の実況	(実施 4 区 未実施 0 区 不明 18 区)
	墨田区「大規模な水害時における一時避難施設の利用に関する協定」、江東区「津波等の水害時における一時避難施設としての使用に関する安心協定」、足立区「水害時緊急避難建物」、葛飾区「水害時における民間集合住宅との一時避難協定」

況(要旨)	議会質問状
-------	-------

# 事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	11-01-15	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	南千住地区住宅市街地総合整備事業の推進	部課名	防災都市づくり部都市計画課	課長名	川原		
		担当者名	井上・阿部	内線	2815		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）							
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 62 年度	根拠	都市計画法、都市再開発法、社会資本整備総合				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無 年度	法令等	交付金交付要綱（国）				
実施基準	<input checked="" type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	VI	安全安心都市				
	政策	12	利便性の高い都市基盤の整備				
	施策	04	市街地再開発事業等の推進				
目的	本事業は、大都市地域等の既成市街地等について、快適な居住環境の創出、都市機能の更新、美しい市街地景観の形成等を図りつつ職住近接型の良質な市街地住宅の供給を推進するため、住宅等の建設、公共施設の整備等を総合的に行うものである。						
対象者等	南千住地区住宅市街地総合整備事業 施行区域：約68.9ha（南千住三丁目、四丁目、八丁目の一部）						
内容	南千住地区住宅市街地総合整備事業の推進 ① 都市計画決定（南千住北部地区地区計画、道路、駐輪場）手続き ② 住市総事業の計画（整備計画、事業計画）策定手続き ③ 関連公共施設（補321、補322、補189）の整備 ④ W街区開発事業（商業施設等）の推進 ⑤ 住宅市街地整備推進協議会（国土交通省・都道府県・区市町村）の全国会議出席 ⑥ 国土交通省所管公共事業の再評価（H15、H20）手続き ⑦ その他（暫定利用部分（W街区事業用定期借地、東京メトロ代替地）の今後の取扱い）						
経過	平成6年3月 南千住地区特定住宅市街地総合整備促進事業 整備計画の大臣承認 平成8年4月 都市計画決定（都市計画道路・南千住北部地区再開発地区計画（E街区）） 平成12年3月 E街区：都・都公社・都市公団南棟竣工（同年8月 公団北棟竣工） 平成14年3月 都市計画変更（南千住北部地区地区計画（W1街区）） 平成15年1月 補助322号線（東口交通広場合む）完成 平成15年3月 W街区における事業用借地権設定契約締結〔3月20日付〕（契約期間：20年間） 平成16年3月 補助321号線（第1期）概成（東京メトロ千住車両基地東側は未整備） 平成16年4月 W街区商業施設等開業 平成19年3月 事業期間の延伸、RF工区：都市機構・民間事業者住宅竣工（～国費導入は26年度まで） 平成20年5月 W1街区：民間事業者住宅竣工（住宅供給計画戸数の達成） 平成31年3月 補助321号線（第2期）事業認可期間の延伸（R4年度まで）						
必要性	事業区域内の道路ネットワークの充実のため、当該事業を引き続き行う必要がある。						
実施方法	（ <input type="radio"/> 1直営 <input type="radio"/> ） （直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） 道路整備、公園整備						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		28年度	29年度	30年度	元年度見込み	目標値（8年度）	
	① 住宅建設（戸）	2,755	2,755	2,755	2,755	2,755	センター工区：1,846戸 リバーフロント工区：809戸
	② 公共施設整備（m）	1,216	1,216	1,216	1,216	1,216	補助321号線、補助322号線、補助189号線
③ 施行区域内居住人口（推計）（人）	7,437	7,552	7,565	7,616	7,616	住宅建設街区＋既成市街地 ※H25以降は外国人を含む	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
継続	継続	平成27年度に住宅供給戸数等が計画目標に達したものの、事業完了公告を行った場合、所有地の優先取得が困難となることから、当面、事業を継続する。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		-	-	-	-	-	-	-
決算額（元年度は見込み）		-	-	-	-	-	-	-
実績の推移	事項名（元年度は見込み）	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）

行政コスト計算書	勘定科目		29年度	30年度	差額	勘定科目		29年度	30年度	差額
	行政費用	給与関係費		2,763	4,476	1,713	地方税			
物件費						国庫支出金				
維持補修費						都支出金				
扶助費						分担金及び負担金				
補助費等						使用料及び手数料				
減価償却費						その他				
不納欠損・貸倒引当金繰入額						行政収入合計(a)	0	0	0	
賞与・退職給与引当金繰入額			595	264	▲ 331	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 3,358	▲ 4,740	▲ 1,382	
その他行政費用						金融収支差額(d)				
行政費用合計(b)			3,358	4,740	1,382	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 3,358	▲ 4,740	▲ 1,382	
特別費用(g)					特別収入(f)					
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 3,358	▲ 4,740	▲ 1,382		

備考 主に給与関係費が行政費用の多くを占めている。また、補助対象事業でもないため、行政収入は発生していない。

問題点・課題  
 ○住宅供給及び区域内人口がほぼ目標に達したことから、残事業及び本計画の取扱いについて検討する必要がある。  
 ○残事業である都市計画道路の整備について、進め方を検討する必要がある。  
 ○暫定利用部分であるW街区の一部は、現在の事業用定期借地権設定契約の期間満了まで4年を切り、借地人からの期間短縮の申し出も可能になったことから、期間満了後に向けて検討する必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	庁内での検討結果を踏まえ、今後の進め方について東京地下鉄(株)と協議の場を設ける。	東京地下鉄(株)に対して、車両基地全体の考え方を問いかけたところである。	時期・費用・方法を含め、今後の進め方について東京地下鉄(株)と協議の場を設ける。
②	W街区の在り方、今後の動きについて、庁内及び関係者とさらに協議を行い、方向性を整理する。	W2街区の在り方について庁内で検討を行うとともに、関係者の意向把握を行った。	今後の協議に向けて、調査委託を実施し、W2街区の現況把握及び将来像をつかむ。
③			

他区の実況	(実施 10 区 未実施 12 区 不明 0 区)
-------	---------------------------

議会要旨  
 ・平成14年3定 W街区の開発と南千住地域の活性化について  
 ・平成14年3定 W街区開発事業者の企画提案の確実な履行と今後の区の係わりについて  
 ・平成14年4定 W街区の施設整備と賑わいの創出について  
 ・平成22年1定 南千住の住み良い街づくりについて  
 ・平成28年度9月会議 LaLaテラスの区有地貸付期間終了後の施設整備について

# 事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	11-01-16	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事		
事務事業名	バリアフリー整備促進事業	部課名	防災都市づくり部都市計画課	課長名	川原			
		担当者名	高梨	内線	2814			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-07-01	バリアフリー整備促進事業費						
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	13 年度	根拠	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(平成18年法律第91号)				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等					
実施基準	<input checked="" type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	I	生涯健康都市					
	政策	02	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成					
	施策	11	バリアフリーの推進					
目的	「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）」に基づき、交通結節点である公共交通機関と周辺の生活関連施設等をつなぐ線的なバリアフリー化、地域一体での連続的・面的なバリアフリー化を推進し、高齢者や障がい者など、誰もが安全・安心・快適に移動できる空間形成を重点的かつ一体的に推進するものである。							
対象者等	公共交通事業者、道路管理者、交通管理者、公園管理者、建築主及び路外駐車場管理者など							
内容	<p>○荒川区バリアフリー基本構想（平成21年度策定）                      これまでの交通バリアフリー法とハートビル法を一体化させたバリアフリー新法の施行に伴い、区全体のバリアフリー整備の指針となるバリアフリー基本構想を策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本理念、基本方針の設定</li> <li>・新たな重点整備地区の抽出</li> <li>・既存地区の基本構想の検証および見直しの実施</li> </ul> <p>≪重点整備地区（4地区）の基本構想策定≫</p> <p>○町屋・区役所周辺地区バリアフリー基本構想（平成22年度策定）                      ○日暮里駅・西日暮里駅・三河島駅周辺地区バリアフリー基本構想（平成23年度策定）                      ○南千住駅周辺地区バリアフリー基本構想（平成24年度策定）                      ○熊野前駅周辺地区バリアフリー基本構想（平成25年度策定）</p>							
経過	平成27年 3月 「荒川区バリアフリー基本構想推進協議会」開催 平成27年12月 「荒川区バリアフリー基本構想推進協議会」（住民検討委員会）開催 平成28年 2月 「荒川区バリアフリー基本構想推進協議会」（特定事業検討委員会）開催 平成28年12月 「荒川区バリアフリー基本構想推進協議会」（住民検討委員会）開催 平成29年 3月 「荒川区バリアフリー基本構想推進協議会」開催 平成29年11月 「荒川区バリアフリー基本構想推進協議会」（住民検討委員会）開催 平成30年 2月 「荒川区バリアフリー基本構想推進協議会」（特定事業検討委員会）開催 平成30年12月 「荒川区バリアフリー基本構想推進協議会」（住民検討委員会）開催 平成30年12月 「荒川区バリアフリー基本構想推進協議会」（特定事業検討委員会）開催							
必要性	すべての人に利用しやすい施設等の整備を確実に推進させるため、必要性がある。							
実施方法	（ <input type="radio"/> 1直営 <input type="radio"/> ） （直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） 区民、学識経験者、関係事業者等からなる「推進協議会」を設置し、これまでに策定した各地区の特定事業計画の進捗管理を行う。							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	特定事業計画（道路）の着手率（%）	36	38	44	47	59	計画着手済項目／事業計画項目
	②	特定事業計画（公共施設）の着手率（%）	47	52	61	62	66	計画着手済項目／事業計画項目
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
重点的に推進	重点的に推進	高齢者、障がい者等の移動や施設利用の利便性を確保するための最優先の事業である。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		7,301	311	317	308	308	336	337
決算額（元年度は見込み）		7,290	95	57	163	106	167	337
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
新法策定協議会開催回数（回）		3	-	-	-	-	-	-
推進協議会開催回数（回）		-	1	0	1	0	1	1
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	委員謝礼等	73	報償費	委員謝礼等	122	報償費	委員謝礼等	168
需用費	協議会賄い・印刷代	5	需用費	協議会賄い	9	需用費	協議会賄い・印刷代	58
委託料	同行援護委託	19	委託料	同行援護委託	28	委託料	同行援護委託	82
使用料等	会場使用料	10	使用料等	会場使用料	7	使用料等	会場使用料	29

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	13,263	13,427	164	地方税	0	0	0	
	物件費	33	45	12	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	73	122	49	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	2,854	791	▲ 2,063	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 16,223	▲ 14,385	1,838	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	16,223	14,385	▲ 1,838	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 16,223	▲ 14,385	1,838	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 16,223	▲ 14,385	1,838		

備考 30年度においては、物件費が同行援護委託の実績増等に伴い増加した。また、補助費等は、委員謝礼等の実績増に伴い増加した。

- 問題点・課題
- 地区別特定事業計画の整備内容の充実、改善
  - 荒川区全体への展開
  - 心のバリアフリー施策の推進
  - 基本構想更新にむけた検討

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	特定事業計画の進捗管理を行うと共に、日暮里駅の諸課題について検討を行う。	特定事業計画の進捗管理を実施「日暮里ターミナル利便性向上のための基本ルール」を策定	特定事業計画の進捗管理及び計画内容の見直しを検討
②	住民検討委員会の実施 特定事業計画の状況調査 (まち歩き点検一町屋、区役所周辺)	住民検討委員会の実施 まち歩き点検を京成町屋駅、東京メトロ町屋駅にて実施	住民検討委員会の実施 まち歩き点検の実施
③			基本構想更新に向けた検討

他区の実況	(実施 20 区 未実施 2 区 不明 0 区)
	※新法での策定は、港区、台東区、目黒区、大田区、豊島区、葛飾区、中野区、杉並区、品川区、文京区、足立区、渋谷区、旧交通バリアフリー法での策定は、千代田区、新宿区、墨田区、江東区、世田谷区、北区、板橋区、練馬区 未実施は、中央区、江戸川区

議会要旨  
 ・平成18年3定 日暮里駅バリアフリー化の実施状況について  
 ・平成22年4定 バリアフリーのまちづくりについて  
 ・平成27年度11月会議 「荒川区バリアフリー基本構想」の現状と今後の展開について  
 ・平成28年度2月会議 日暮里駅北口のバリアフリー化について  
 ・平成30年度6月会議 区内の主要な駅のバリアフリー化の促進について



# 事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	11-01-17	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事			
事務事業名	日暮里駅総合改善事業	部課名	防災都市づくり部都市計画課	課長名	川原				
		担当者名	高梨	内線	2814				
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）									
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業				
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 14 年度	根拠	鉄道駅総合改善事業費交付要綱（国交省）						
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	法令等							
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画					
行政評価事業体系	分野	VI	安全安心都市						
	政策	12	利便性の高い都市基盤の整備						
	施策	03	交通環境の整備						
目的	日暮里駅の混雑緩和やバリアフリー化、乗り換え負担の軽減を図るため、鉄道施設等の建設およびその施設の貸付けや維持管理を行う。								
対象者等	○事業主体 日暮里駅整備株式会社(第3セクター)								
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スカイライナー利用者の利便性・快適性の向上</li> <li>○朝夕ラッシュ時の混雑緩和</li> <li>○バリアフリー化の推進</li> <li>○乗換利便性の向上を図るため駅の改良</li> <li>○鉄道施設等の建設</li> <li>○鉄道施設等の貸付</li> <li>○鉄道施設等の維持管理</li> </ul>								
経過	<p>平成13年 5月 国土交通省「首都圏空港アクセス改善緊急対策」で「日暮里駅の総合改善」を発表</p> <p>8月 都市再生プロジェクト（第二次決定）において成田Bルート（成田スカイアクセス線）の早期整備が位置付けられる</p> <p>14年10月 日暮里駅整備株式会社設立（荒川区出資51%）</p> <p>18年 3月 計画上り線切替え</p> <p>19年 7月 京成線・JR連絡口統合化</p> <p>21年10月 日暮里駅計画下り線完成。新京成日暮里駅完成式典</p> <p>22年 3月 日暮里駅工事完了</p> <p>22年 7月 成田スカイアクセス線開業</p> <p>荒川区が成田スカイアクセス開業記念式典『NN36Festival in ARAKAWA』を開催</p>								
必要性	平成13年5月、国土交通省から「首都圏の空港アクセス改善緊急対策について」が提言され、課題として日暮里駅の総合的改善が示された。鉄道駅総合改善事業の実施にあたっては、区と京成電鉄が出資して設立した日暮里駅整備株式会社が事業主体となった。								
実施方法	<p>（<input type="radio"/> 直営 <input checked="" type="radio"/> ） （直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）</p> <p>○事業主体（日暮里駅整備株）へ区は51%（510万円）出資している。</p> <p>○整備費の一部として、国20%、地方20%（都15%、区5%）の補助を行った。</p>								
指   標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明		
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)	
	①	一日あたりの乗降客数（人） （京成日暮里駅）		101,154	103,528	105,128	107,000	-	京成電鉄発表値
	②								
③									
事務事業の分類			分類についての説明・意見等						
元年度		2年度							
継続		継続		日暮里駅整備株の適切な運営に関する調整を継続して実施する。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		-	-	-	-	-	-	-
決算額 (元年度は見込み)		-	-	-	-	-	-	-
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名 (元年度は見込み)								
株主総会開催回数 (回)		2	3	2	1	3	2	1
取締役会開催回数 (回)		6	6	7	4	6	6	4
予算・決算の内訳		平成29年度 (決算)		平成30年度 (決算)		令和元年度 (予算)		
節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)	節	主な事項	金額 (千円)

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目		29年度	30年度	差額	勘定科目	29年度	30年度	差額
	行政費用	給与関係費	8,842	8,951	109		地方税		
	物件費				国庫支出金				
	維持補修費				都支出金				
	扶助費				分担金及び負担金				
	補助費等				使用料及び手数料				
	減価償却費				その他				
	不納欠損・貸倒引当金繰入額				行政収入合計 (a)	0	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	1,903	528	▲ 1,375	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	▲ 10,745	▲ 9,479	1,266	
	その他行政費用				金融収支差額 (d)				
	行政費用合計 (b)	10,745	9,479	▲ 1,266	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	▲ 10,745	▲ 9,479	1,266	
	特別費用 (g)				特別収入 (f)				
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	▲ 10,745	▲ 9,479	1,266	

備考

主に給与関係費が行政費用の多くを占めている。また、補助対象事業でもないため、行政収入は発生していない。

問題点・課題

○日暮里駅整備(株)における施設の安定した貸付と維持管理が行えるよう運営に関する調整を行う。

## 問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	日暮里駅整備(株)の株主総会及び取締役会の実施及びホームドア(1F)設置に関する協議。	日暮里駅整備(株)の株主総会及び取締役会の実施	日暮里駅整備(株)の株主総会及び取締役会の実施
②		日暮里駅整備(株)の施設を利用している京成電鉄によるホームドア(1F)の設置	日暮里駅整備(株)の施設を利用している京成電鉄と、案内サイン見直しに関する協議を行う
③			

他区の実況	(実施 3 区 未実施 19 区 不明 0 区)
	京浜急行蒲田駅 (大田区)、西武新宿線下井草駅 (杉並区)、西武池袋線東長崎駅 (豊島区)
議会要旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成14年4定 日暮里駅総合改善計画と京浜東北線日暮里駅停車について</li> <li>平成16年4定 駅総合改善事業の騒音対策について</li> <li>平成22年1定 成田新高速鉄道開業イベントの開催について</li> </ul>

# 事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	11-01-18	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input checked="" type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	コミュニティバスの利用促進	部課名	防災都市づくり部都市計画課	課長名	川原		
		担当者名	高梨	内線	2814		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-11-01	コミュニティバス関連事業費					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	17年度	根拠	道路運送法、道路交通法、道路法			
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	VI	安全安心都市				
	政策	12	利便性の高い都市基盤の整備				
	施策	03	交通環境の整備				
目的	主要な交通経路が不足する地域の交通利便性を向上させ、高齢者や障がい者等の移動手段を確保する。						
対象者等	区民、区民以外のバス利用者						
内容	①運行 京成バス㈱による自主運行。区はバス停留所等の整備、車両購入費の一部補助 ②運行経路（南千01系統）南千住駅西口、町屋駅、荒川区役所、南千住駅西口を結ぶ左回り循環 約5.9km、30分程度、16停留所、47便/日、15～20分間隔、始発6:40～終発21:20 （南千02・02-1系統）南千住駅西口、町屋駅、南千住駅西口を結ぶ右回り循環 約6.0km、30分程度、15停留所、29便/日、30分間隔、始発6:50～終発20:55 （南千03系統）南千住駅東口、南千住駅西口を結ぶ往復運行 片道約3.7km、20分程度、12停留所、45便/日、20分間隔、始発6:40～終発21:20 （町屋04系統）新三河島駅、熊野前駅、尾竹橋、町屋駅を結ぶ循環運行 約6.3km、30分程度、20停留所、23便/日、40分間隔、始発6:40～終発21:20、平日のみ （町屋05・05-1系統）子ども家庭支援センター、尾竹橋、尾久橋を結ぶ往復運行 片道約3.0km、15分程度、23停留所、22便/日、20分間隔、始発6:54～終発20:54						
経過	平成16年12月 京成バス株式会社と「荒川区コミュニティバス運行に関する協定書」締結 平成17年4月20日 コミュニティバス「さくら」開業（南千01系統） 平成19年12月30日 町屋駅→グリーンハイム荒川の夕刻以降における運行開始（南千02系統） 平成20年10月31日 コミュニティバス「汐入さくら」運行開始（南千03系統） 平成24年2月 「荒川区地域公共交通会議」の設置 平成24年11月1日 コミュニティバス「町屋さくら」運行開始（町屋04系統） 平成26年11月1日 コミュニティバス「町屋さくら」一部区間往復運行開始（町屋05系統） 平成27年3月29日 コミュニティバス「さくら」双方向運行開始、「汐入さくら」中型車両運行開始 平成29年3月26日 コミュニティバス「さくら」土休日のゆいの森経由便運行開始（南千02-1系統） コミュニティバス「町屋さくら」土休日の循環便縮小、往復便拡大（町屋05-1系統）						
必要性	区民の地域交通及び環境交通として必要である。						
実施方法	（ <input type="radio"/> 直営 <input checked="" type="radio"/> ） （直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） 事業者、交通管理者、道路管理者、学識経験者、区民代表、区職員で構成される「荒川区地域公共交通会議」を設置し、検討を進める。						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		28年度	29年度	30年度	元年度見込み	目標値(8年度)	
	① 「さくら」乗車人数（一日あたり）（人）	1,636	1,605	1,619	1,650	1,900	
	② 「汐入さくら」乗車人数（一日あたり）（人）	1,250	1,295	1,376	1,380	1,500	
③ 「町屋さくら」乗車人数（一日あたり）（人）	559	585	615	620	1,200		
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
重点的に推進	推進	利用者への更なるサービス向上策等の検討を行い、より良いコミュニティバスを目指し、事業を推進していく。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		2,947	20,296	162	3,163	163	20,117	7,163
決算額（元年度は見込み）		2,615	15,059	0	2,527	0	0	7,163
実績の推移	事項名（元年度は見込み）	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	委員謝礼	0	報償費	委員謝礼	0	報償費	委員謝礼	103
需用費	会議用賄い等	0	需用費	会議用賄い等	0	需用費	会議用賄い等	31
使用料等	会場使用料	0	使用料等	会場使用料	0	委託料	調査検討委託	7,000
			工事請負費	停留所環境整備	0	使用料等	会場使用料	29

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
	給与関係費	11,053	11,189	136	地方税				
	物件費				国庫支出金				
	維持補修費				都支出金				
	扶助費				分担金及び負担金				
	補助費等				使用料及び手数料				
	減価償却費				その他				
	不納欠損・貸倒引当金繰入額				行政収入合計(a)	0	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	2,379	659	▲ 1,720	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 13,432	▲ 11,848	1,584	
	その他行政費用				金融収支差額(d)				
	行政費用合計(b)	13,432	11,848	▲ 1,584	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 13,432	▲ 11,848	1,584	
	特別費用(g)				特別収入(f)				
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 13,432	▲ 11,848	1,584	

備考

主に給与関係費が行政費用の多くを占めている。また、補助対象事業でもないため、行政収入は発生していない。

問題点・課題

○未導入地域への運行、既存路線の運行改善の検討  
○更なるサービス向上に向けた検討

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	さくらルートの上屋整備 運行改善、未導入地域への運行の検討	利用促進、サービス向上のための検討 運行改善、未導入地域への運行の検討	利用促進、サービス向上のための検討 運行改善、未導入地域への運行の検討
②			
③			

他区の実況	(実施 17 区 未実施 5 区 不明 0 区)
	実施済は、千代田区、中央区、港区、新宿区、文京区、台東区、墨田区、江東区、大田区、世田谷区、渋谷区、杉並区、北区、板橋区、練馬区、足立区、葛飾区 未実施は、品川区、中野区、江戸川区、豊島区、目黒区
議会(要旨)質問状	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度2月会議 コミュニティバスについて</li> <li>平成28年度11月会議 コミュニティバスの日暮里地域への導入について</li> <li>平成29年度9月会議 コミュニティバス・都電について</li> <li>平成29年度2月会議 日暮里地区のコミュニティバスについて</li> <li>平成30年度予算特別委員会 コミュニティバスについて</li> </ul>

# 事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	11-01-19	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事		
事務事業名	擁壁等対策事業	部課名	防災都市づくり部都市計画課	課長名	川原			
		担当者名	井上・阿部	内線	2815			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-16-01	擁壁等対策事業費						
事務事業の種類	<input checked="" type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input checked="" type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	30年度	根拠	荒川区擁壁専門家派遣事業実施要綱				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等	荒川区擁壁等対策工事助成金交付要綱				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画	<input checked="" type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	VI	安全安心都市					
	政策	11	防災・防犯のまちづくり					
	施策	03	災害に強い街づくりの推進					
目的	大雨や地震等の自然災害に備えて、荒川区内の土砂災害特別警戒区域内等に存するがけ又は擁壁（以下「擁壁等」という。）を所有する区民等に対して、専門家派遣及び工事助成といった支援を行うことで、宅地及び建築物の安全性の向上を図り、災害に強いまちづくりを推進することを目的とする。							
対象者等	対象地に存する擁壁等の所有者（借地権者を含む） ただし、地方公共団体、鉄道事業者、不動産業者、建設業者を除く							
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●専門家派遣 荒川区建築設計事務所協会への業務委託により実施 申込者に対して区は擁壁専門家を派遣（申込者の費用負担はなし） 擁壁専門家は以下の業務を行う ①現地調査及び申込者ヒアリング ②対策内容の提案書の作成及び申込者への説明</li> <li>●対策工事助成 助成の対象は、①耐震診断の結果倒壊の恐れがあり、②一定範囲内に被災想定家屋があり、③安全上有効と思われる工事 助成の額は、補助対象工事費の1/2以内かつ上限1,000万円</li> </ul>							
経過	平成27～28年度 土砂災害防止法に基づく基礎調査【都】 平成29年7月13日 基礎調査結果公表 平成29年10月20日 住民説明会【都区共催】 平成30年1月30日 区域指定【都】 平成30年5月28日 荒川区擁壁専門家派遣事業実施要綱制定 6月20日～擁壁専門家派遣事業開始 平成31年4月1日 擁壁等対策工事助成金交付要綱制定・擁壁等対策工事助成開始							
必要性	各地で大雨による土砂災害が続発する中で、本事業は、土砂災害のおそれのある区域に存する擁壁等の安全性を確保するために専門家の派遣や工事助成を行うものであり、災害に強いまちづくりを推進するために必要な支援策である。							
実施方法	（ <input type="radio"/> 一部委託） （直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員） 擁壁専門家派遣事業の流れ：申込み⇒専門家派遣⇒現地調査・ヒア⇒対策提案書作成・説明 対策工事助成の流れ：事前協議⇒内定申請・決定⇒工事契約・着手・完了⇒交付申請・決定⇒請求							
指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移			指標に関する説明		
			28年度	29年度	30年度		元年度見込み	目標値(8年度)
	①	擁壁専門家派遣(件)				4	10	実績の件数
	②	対策工事助成(件)				1	5	実績の件数
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
継続	推進	土砂災害防止法に基づく区域指定を受けて、対象区域内の擁壁等の安全性向上のために支援する事業であるため、推進する。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	
予算額								11,648	
決算額（元年度は見込み）								11,648	
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	
事項名（元年度は見込み）									
擁壁専門家派遣（件）									
対策工事助成（件）									
予算・決算の内訳		平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）	
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	
						委託料	擁壁等改修専門家派遣業務委託	1,648	
						負担金等	擁壁等改修工事助成金	10,000	

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目		
	29年度	30年度	差額		29年度	30年度	差額
	給与関係費		0	地方税			
	物件費			国庫支出金			
	維持補修費			都支出金			
	扶助費			分担金及び負担金			
	補助費等			使用料及び手数料			
	減価償却費			その他			
	不納欠損・貸倒引当金繰入額			行政収入合計(a)	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	0	0	
	その他行政費用			金融収支差額(d)			
	行政費用合計(b)	0	0	通常収支差額(c)+(d)=(e)	0	0	
	特別費用(g)			特別収入(f)			
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	当期収支差額(e)+(h)	0	0	

備考 31年度からの新規事業（対策工事助成）。

問題点・課題 ○対象区域内の方に確実に事業周知を図る必要がある。  
○対策工事費が高額になることが想定されるため、事業開始後も、他区の状況を見ながら、事業が着実に進むような補助割合・上限額の検討が必要。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	平成30年1月30日の区域指定を受けて、擁壁等対策に係る支援策を検討する。	平成30年6月20日から、擁壁専門家派遣事業を開始し、1件の実績があった。	さらなる支援策として対策工事助成を開始する。
②	擁壁等対策に係る国や都の補助について協議する。	擁壁等対策に係る国費の導入について都と協議を行い、実現させた。	国費の拡充、都費の新設を要望していく。
③	新規事業について、対象者へ周知を行う。	対象者に個別に周知を行った。	引き続き、定期的に対象者に対して個別に事業の説明を行う。

他区の実況	(実施 10 区 未実施 12 区 不明 0 区)
	●専門家派遣実施区－新宿、品川、世田谷 ●工事助成実施区－港、新宿、文京、台東、品川、目黒、大田、北、板橋

況（要旨） 議会質問状